

別記様式（第6条関係）

令和7年5月23日

清水町議会議員 山下 清美 様

清水町議会議員

只野敏彦

研 修 報 告 書

清水町議会議員研修要綱第6条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

- 1 研修名（主催者） 令和7年度市町村議会議員研修〔2日間コース〕
〔自治体決算の基本と実践～行政評価を活用した決算審査～〕
（全国市町村国際文化研修所）
- 2 研修日時 令和7年5月19日（月）～20日（火）
- 3 研修先 全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市）
- 4 研修目的 議会の活性化に資するため。
- 5 成果（具体的に）

北海道から沖縄まで全国から151名の市町村議会議員が2日間にわたって研修を受けました。初日は、武蔵女子大学経営学部 金崎健太郎教授による自治体決算の意義と審査のポイントでした。民間は決算が大事すべてであるが、自治体は予算がすべてである。しかしながら自治体も終わったことか？見えることか？あり、歳入予算が、執行されたのか、成果が出たのか？どうなのか？で市民のためになったのか？の評価がわかる。また、決算を用いた財政診断を行なうことも自治体決算の大事なところで、財政力指数、経常収支比率、実質公債比率、将来負担比率などの指標の説明をされ、財政再生団体である夕張市の話をされていました。今のところ早期健全化団体もないし、第2の夕張はあらわれたいとのことでしたが、北見市はどうなのだろう？と思いました。近くに座っていた、広島県世羅町、群馬県高井村、徳島県つるぎ町の中では清水町が実質公債比率も経常収支比率も、一番良い数字でした。そして、歳入、歳出が決算で増えたり、減ったり

た原因を明らかにすることだ。類似団体との比較や、全国的な傾向を分析することや、将来に向けて財政運営上の課題として考えられることは何かを見つけることだと話していました。

2日目は京都大学公共政策大学院小西敦名教授による自治体決算の基本と実践、行政評価を活用した決算審査の話でした。私としてはちょっと難しい話であり、行政評価とは何れやかからの始まりでした。今だに行政評価自体を良くわかっていないのですが、事前アンケートでは行政評価制度を活用した決算審査を実施していると答えた人が46%もいたのはおどろきでした。やはり、ばなしの政策がタタかった中、行政評価をすることによって改善される、また国からも行政評価をすることによって交付金をもらえるという流れも進んでいる。ということで考えなければならぬことである。最後に藤枝市議会の取り組みから議会と行政評価の関係についてをグループで討議しました。7町村の議員で話し合うのですが、私自身はよくわからず終わってしまった。この研修に参加して、いろいろ勉強になったし何人かの議員の方と話ができて良かったです。